30 年のあゆみ

令和 5 年 11 月

北上ふるさと会

この冊子は、北上ふるさと会創立30年を記念して、これまでのあゆみを簡単に取りまとめたものである。　（文責：小原 磯則）

「北上ふるさと会」の 30 歳に想う

会長　渡邊 嘉二郎

北上ふるさと会活動は、今年 2023 年で 30 年目に入った。昨年は北上市政 30 周年を迎え、ほぼ同時期にふるさと会活動が開始されたことになる。30 年前の 1993 年に還暦を迎えた会員は 1933 年生まれ、中学を卒業するときは 1949 年である。この年は中華人民共和国の建国、NATO が設立され、日本では労働争議が相次いだ。明るいニュースは湯川秀樹が日本人初のノーベル賞受賞。国の予算では、ドッジ・ラインというインフレ抑制のための財政金融引き締め政策がとられた。戦後の世界の枠組みができ日本の復興が始まりかけた年である。これを支えたのが「金の卵」と呼ばれた若い人材であった。当時、黒沢尻驛から上野驛まで急行でも十二時間、エアコンのない蒸気機関車でトンネルに入るたびに窓を締めた。上野に着くころはシャツの襟は煤で黒ずんでいた。「金の卵」の会員は故郷を離れ不慣れな首都圏で働き生活することとなった。故郷は「遠くにあり」寂しく、郷愁の思いを胸にしつつ、耐え頑張ってきた。自営したり退職したりし還暦を迎えた会員が、はばかることなく南部と伊達の訛りで昔を語りあった。その場が北上ふるさと会の集いであった。そこは都会の中のオアシスであった。

2023 年に還暦を迎える人は 1963 年生まれで、高校を卒業する年は 1981 年、この年にはアメリカでスペースシャトルコロンビアが打ち上げられ、国内では校内暴力史上最高、中田康夫の「なんとなく、クリスタル」がベストセラーとなる時代、国家予算は 49 兆 6 千億と戦後の混乱期を脱し、日米間では自動車貿易摩擦が発生するところまで復活した。翌年には大宮―盛岡間で東北新幹線が開通した。故郷は「グンと近く」なった。会員の思いは懐かしさだけでなく故郷の誇りと故郷への貢献に変わってきた。

この 30 年間、北上ふるさと会はその時代の変化に応じつつ北上出身者の思いをくみ上げ、適切な企画を実施してきた。このふるさと会活動を立ち上げられた先達に深い敬意を表さざるをえない。現在でも毎年の北上ふるさと会の集いはもとより、在京北上産業人会、民話研究会、大江戸探索会、山歩きの会と活動が継続されている。また関連団体との交流も継続している。役員の皆さんは苦労を喜びとして頑張っている。皆さんの努力に感謝しかない。

孔子の論語は「三十而立」、すなわち「人は 30 歳になって、その基礎ができて自立できるようになった」と教えている。ふるさと会組織は人ではないが、やはりようやく自立できるようになったのかもしれない。ふるさと会活動の理念のもと、それぞれの時代にその時々の役員が適切に会を支え今まで来たのだ。会が 50 歳になるとき、本当の意味での「天命」すなわち「ふるさと会に与えた使命が自覚できる」ようになるのかもしれない。

30 年の節目に立ち、20 年後のふるさと会を展望する。世の中は大きく変わりつつあり 20 年後は予測できない。しかし、北上ふるさと会はこの変化に対応し、首都圏から北上を力強く支える組織であり続けているであろう。そう確信する。

北上ふるさと会30周年に寄せて

北上市副市長　及川 義明

「北上ふるさと会30周年のあゆみ」発刊おめでとうございます。

東京事務所勤務を命ぜられ、三田の宿舎への引越しを終えた平成7年3月20日朝、東京都心は多くの救急車と消防車が大きなサイレンを鳴らして走り回っていました。地下鉄サリン事件の発生です。午後から内幸町の東京事務所を訪れる予定にしておりましたので、これが朝からの予定としていたらと思うととてつもない恐怖心と、これからの東京生活に対しての不安感でいっぱいになりました。

北上市東京事務所は企業誘致と国(霞が関)からの最新情報収集最前線基地としての任務を負っていましたが、そんな中でふるさと会の事務も重要な業務で、平成5年の北上ふるさと会設立時には、その準備会の役員の皆様とともに会員名簿作りから始めた苦労話を私の先代の八重樫孝志さんから伺っておりました。

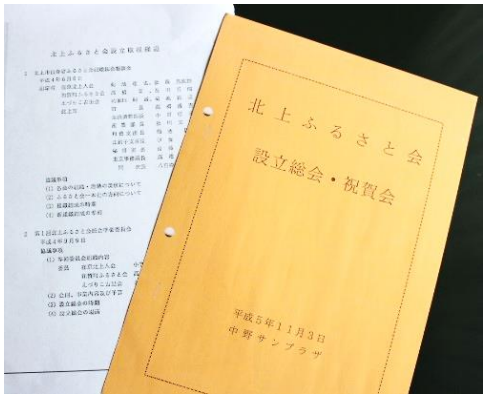
私が着任した平成7年は統合してまだ日も浅かったせいか、役員の皆さまそれぞれに未だよそよそしさも感じ取られましたが、当時の役員の折笠英夫さん、及川五郎さん、高橋三郎さん、髙橋洋明さん、髙橋仁さん、菊地威さんなどから、故郷北上に込める強い思いを何度となくお聞きして、北上市はとてつもない応援団を得たと強く感じ取りました。　そのためにも東京での北上の露出度を上げなければと思い、北上市役所あげての取組として平成8年秋に新宿西口の住友ビルとその広場で「北上フェア」と銘打って北上ふるさと会、北上西和賀観光物産展、企業誘致説明会を同時開催しました。このイベントには岩崎鬼剣舞や川岸かっぱ太鼓を招聘し、告知に山手線の中吊りや日経新聞の広告を使ったことから大勢の方々に訪れていただいたことは良き思い出です。

諸事情から北上市東京事務所は平成21年3月をもって閉鎖しましたが、その間に駐在した職員12名はふるさと会の皆様と親しいお付き合いをさせていただきました。
このメンバーは今でも4月に展勝地の満開の桜と悠久なる北上川の流れを眺めなら、北上川河畔の枕流亭で前々市長伊藤彬氏とともに東京での思い出話に花を咲かせています。毎年やっていますので、この時期に北上にお越しの際はお声かけください。

終わりに北上ふるさと会のますますのご発展をお祈り申し上げます

１．北上ふるさと会の変遷

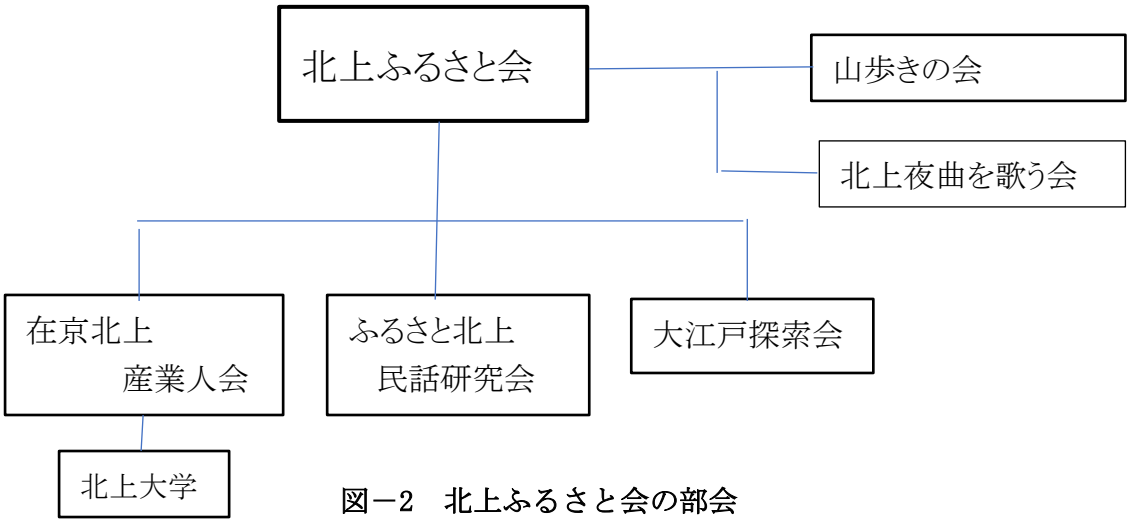
平成３年４月、北上市 、和賀町、江釣子村の３市町村が合併し、新たな 北上市が誕生し、同年９月には、北上市東京事務所（千代田区）が開設された。これに伴い、平成３年１１月に北上ふるさと会の設立総会が中野サンプラザで開催され、それまで関東地区にあった「在京北上人会」「和賀町ふるさと会」「えづりこ故郷会」が発展的解散し、これらが一緒になって現在の「北上ふるさと会」として発足することとなった。



図―1　設立総会

その後、会員の要望に応じて次々と部会ができ、部会活動も盛んにおこなわれてきた。ふるさと北上民話研究会（平成 12 年）、産業人部会（現在の在京北上産業人会）（平成 15 年）、大江戸探索会（平成 16 年）、産業人会の傘下に若手グループでの「北上大学」を立上げ（平成 27 年）、山歩きの会（令和元年）、「北上夜曲」を歌う会（令和元年）がそれぞれ発足した。

現在の組織を図式化すれば　次のようになる。



図－2　北上ふるさと会の部会

会報「在京きたかみ」は、平成 15 年以降毎年発行（平成 30 年以降、地元情報を入れるなど増ページ）するとともに、ホームページやフェイスブックを通じて、会員や関係者に対する情報提供に努めてきた。

事務所は、北上市の東京事務所があった時はその一角にあったが、平成 20 年度末に当事務所が廃止され、「北上ふるさと会」と「産業人会」が独立した事務をやっていたことも

あり、それぞれ練馬区に事務所を置いた。その後、両方の事務を一元的にやることになり、平成 25 年度から事務所も集約した。役員会等の会合は適宜外部の会議室を使った。令和元年 4 月からは、中央区にバーチャルオフィスのリッシェ日本橋を借り上げ、種々の会合や作業、資料の保管、印刷業務の委託を行っていたが、役員会等の会合はコロナ汚染防止期間中オンラインで、そして、最近は京橋区民館など外部の会議室を利用している。

（1）北上ふるさと会の集いの開催

「北上ふるさと会」は新たに発足してから、年一回総会・懇親会を開催して会員相互の親睦を深めてきたが、新型コロナ感染拡大のため、令和 2～3 年度は会合を見送った。

総会では、会則に基づく審議のほか、北上市との情報交換、民話の語り等を行い、懇親会では、食事を楽しみながら、郷土芸能の鑑賞、ふるさとの合唱、輪踊りなどを行い、会員の旧交を温める機会を持ってきた。

（2）部会活動の紹介

イ．在京北上産業人会（北上大学も含む）

首都圏で活躍されている北上出身の産業人の方々の情報交換等を目的として組織されたのが北上産業人会である。会員の互いのビジネスを盛り上げるにとどまらず、北上市の産業振興に寄与すべく活動してきた。研修会・交流会の開催をはじめ、下部組織としては、平成 28 年には、若い会員が中心となって自主的な学びの場である「北上大学」を立ち上げ、独自の活動をしている。

平成 15 年に「産業人部会」として発足してから、主として年度前半に著名な講師を招いて勉強し、後で参加者による懇親会を行ってきた。ふるさと会からの補助は受けつつも、独自の活動を続け、北上市の東京事務所が閉鎖後も事務局は二本立てであったが、平成 25 年度から事務局機能を一元化し、予決算もふるさと会に集約して合理化を図った。

コロナ感染問題もあり、従来の講演会のような対面方式から、令和 3 年度からは zoom を用いたオンライン方式を試みられている。関東圏のみならず、北上市をはじめ、参加者が広範囲になるというメリットも享受できている。

ロ．ふるさと北上民話研究会

北上・西和賀地方で語り継がれてきた民話を伝承し、えなだり語(家の辺り＝えのあだりの言葉）で民話を語る会として、平成 12 年、ふるさと会の部会としては最初に発足した。同研究会は、定例会を東京都京橋区民館で開催して、会の運営について話し合うとともに「語り」の研鑽を積んできた。北上ふるさと会の集いでは、懇親会に入る前に必ず口演されている。対外的には、各種の会合で語るとともに、岩手各地持ち回りで開催される「いわて民話まつり」に参加し、平成 29 年には展勝地民俗村で「いわて民話まつり in 北上」を主催した。周年行事としては、10 周年に民俗村での里帰り口演、15 周年は北とぴあで記念口演、さらに 20 周年も計画していたがコロナで断念し、プレ 20 周年イベントで終わった。同研究会は、いわて銀河プラザや木場公園で行われる北上市の物産展にも協力してきた。

ハ．大江戸探索会

北上から上京して東京に住んでいるけど、東京の事あんまり知らないな」と云う話し前述の「民話研究会」の場から出て、平成 16 年に発足して東京を歩いてみることになった。コロナ感染の関係で、開催回数、参加者数の減少を余儀なくされたが、基本的には、年に 6 回ほど首都圏のあちらこちらを探索してきた。

参加者の高齢化等を考慮し、今後は、開催回数と探索時間の縮小を検討している。

ニ．山歩きの会

平成 27 年から有志で行われていたものが、令和元年の総会で北上ふるさと会の事業として正式に発足した。（資料参照）　しかしながら、新型コロナ感染拡大防止の観点から活動が停滞するとともに、最近は、参加者の高齢化等から気楽に歩ける山が選ばれている。

ホ．「北上夜曲」を歌う会

昭和 62 年、北上市で「『北上夜曲』歌唱コンクール全国大会」が始まり、その東京予選が、新宿の歌声喫茶“ともしび”で行われた。（当コンクールは平成 23 年閉幕）当時の担当者がいわて銀河プラザでの北上市の物産展に訪れたのをきっかけに、ふるさと会の事業として取り上げる機運が高まり、平成 30 年に同会が発足し、ふるさと会メンバーが何回か訪れた。

その後コロナ感染問題が勃発し、新宿にあった“ともしび”が閉鎖するなど本会の活動も停止した。令和 4 年秋に“ともしび”が高田馬場に開店し、平成 5 年 10 月に同会が復活した。

２． 北上市が主催する事業、関係団体の主催する事業への協力

主なものは以下の通りである。

・平成 14 年にふるさと会創立 10 周年記念として「みちのく芸能まつり」協賛・継続

・物産展への協力（いわて銀河プラザ、江東区民まつり、小金井まつりなど）

・北上市市制 30 周年及び展勝地開園 100 周年記念行事に参加

・近隣のふるさと会との交流（中部 8 団体は幹事持ち回り、個別ふるさと会は周辺のみ）

・県人連合会主催の新春懇親会、岩手県人の集い、献血奉仕活動への参加

・鎌倉和賀江嶋の清掃活動（平成 30 年以降継続）

＜資料集＞

・「集い」（平成 22 年度以降の参加動向を含む）及び各部会活動の実績